



Title	本研究会の活動（2022年4月～2023年3月）
Author(s)	
Citation	詞林. 2023, 73, p. 48-49
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/91288">https://hdl.handle.net/11094/91288</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

本研究会の活動（2022年4月～2023年3月）

本研究会の活動（2022年4月～2023年3月）

第322回 2022年9月3日（土）

『元久詩歌合』と『内裏詩歌合』における漢詩句の詠法

黄 夢鴻

第318回 2022年4月16日（土）  
『和漢朗詠集』の排列基盤  
—公任の編纂意識を探る—

室町中後期における『源氏物語』第三部の注釈態度

百井 花

—登場人物の呼称に対するまなざし—

川渕 紗佳

『うつほ物語』の平安京

飯田 実花

—「一条」空間を中心にして—

川渕 紗佳

第319回 2022年5月14日（土）

和歌における「あさぼらけ」と「あけばの」の相違について

篠原 美夏

第320回 2022年6月25日（土）  
古今集時代の〈月下の白菊〉の構図形成について

蒲 嫣艶

千穎集序をめぐって

滝川 幸司

第321回 2022年7月30日（土）

慶滋保胤「為大納言藤原卿息女女御四十九日願文」における『往生要集』の思想

小西 洋子

第323回 2022年11月26日（土）

陽明文庫蔵『源氏物語註』の基礎的研究  
—「萬水一露」の成立過程と注釈姿勢の再検討—

松本 大

第324回 2023年1月28日（土）  
『源氏物語』における内大臣の位置

『春曙』題の始点と展開  
—「曙」と「あけばの」の関係から—

西澤 知歩

第325回 2023年2月18日（土）  
『大和物語』と『後撰和歌集』の関係性

篠原 美夏

—私家集『兼輔集』を媒介に—

李 宗元

『古今和歌集』における色彩の表現  
—「染む」を中心に—

安 伯潔

「高唐賦」と仏教思想  
—空海・道真の願文を中心に—

小西 洋子

第326回  
2023年3月25日（土）

平安朝の竟宴詠史詩について

—「北堂漢書竟宴各詠史得淮南王劉安」を中心に—

夕霧・紅梅の呼称から見る室町後期の『源氏物語』  
—『一葉抄』『弄花抄』『綱流抄』を拠点として—  
李恬恬  
注釈史

川渕紗佳